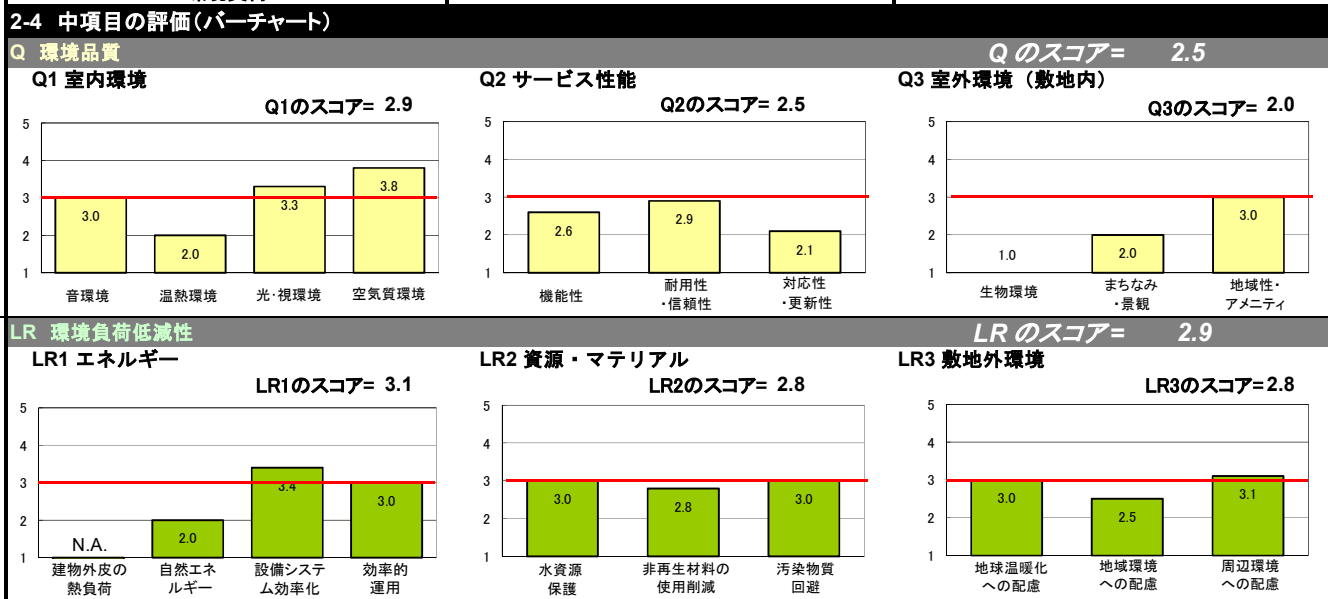
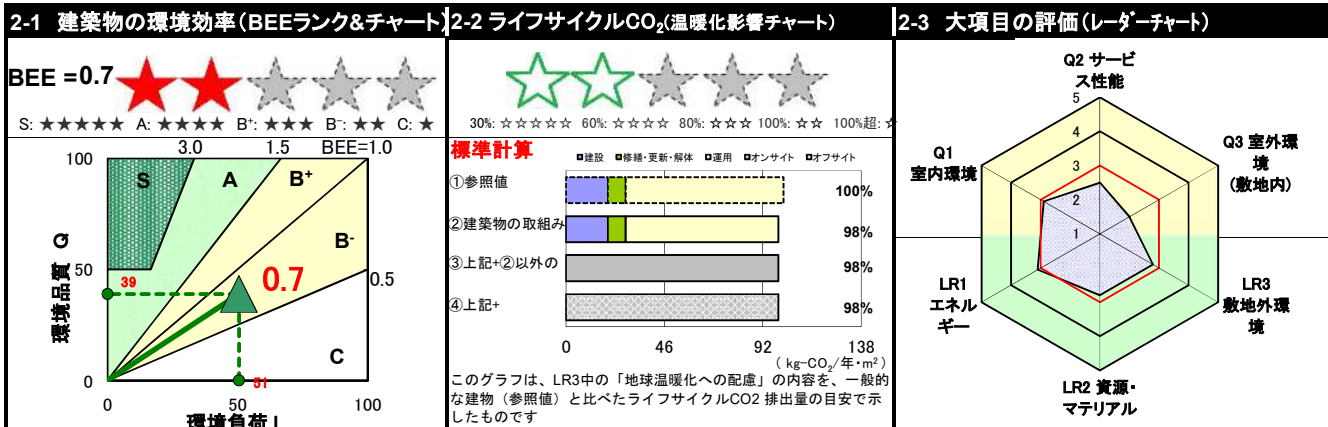


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20012

建築物名称	(仮称) ルーブル平間新築工事
建築主	株式会社TFDコーポレーション 代表取締役 船間 隆行
建築物の所在地	川崎市中原区中丸子字南田592番3
設計者氏名、建築士事務所名	繁野 浩一 株式会社アクシス 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,107.81㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階
工事完了年月	令和4年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観		20012
建物名称	(仮称)ルーブル平間 新築工事	階数	地上7F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください		
建設地	川崎市中原区中丸子字南田592番3	構造	RC造			
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	132 人			
地域区分	6地域	年間使用時間	11,118 時間/年(想定値)			
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価			
竣工年	2022年2月 竣工	評価の実施日	2020年6月24日			
敷地面積	1,288 m ²	作成者	繁野浩一			
建築面積	753 m ²	確認日	2020年6月24日			
延床面積	4,108 m ²	確認者	繁野浩一			



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。	1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	品確法性能表示(温熱)等級3相当とした。 庇、カーテンによりグレアを制御した。	1.6/2.2	3.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー対策等級3相当とした。	3.1/5.0	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	室外機の排熱は低温排熱にすることで気温上昇の抑制に努める	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.3/4.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	荷捌きスペースを確保した	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー対策等級3相当とした。 LED照明器具を採用し省エネに配慮した。	3.1/5.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	室外機の排熱は低温排熱にすることで気温上昇の抑制に努める	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー対策等級3相当とした。 LED照明器具を採用し省エネに配慮した	3.1/5.0	3.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
(仮称)ループル平間 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

20012

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.40		-	2.9
1 音環境						-	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル						-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音						-	-	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能						-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御						-	-	3.0	0.50	
1 室温						-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		W				-	-	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	1.0	0.20	
2.3 空調方式						-	-	1.0	0.30	
3 光・視環境						-	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用						-	-	3.0	0.30	
1 昼光率						-	-	3.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	4.0	0.30	
1 昼光制御		W			庇、カーテン(レール)によりグレアを制御。	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度						-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御						-	-	3.0	0.25	
4 空気質環境						-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用している。	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気						-	-	3.6	0.38	
1 換気量						-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.5
1 機能性					3.0	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	3.0	0.60	
	1	広さ・収納性			-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00	
	3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
	1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	
	3	内装計画			-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.43	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.0	1.00	2.1
3.1 空間のゆとり					-	-	1.0	0.50	
	1	階高のゆとり			-	-	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ			-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出					G	W		H	1.0
2 まちなみ・景観への配慮					G				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上							
	3.2	敷地内温熱環境の向上	G	W					

LR 建築物の環境負荷低減性							-		-	2.9
LR1 エネルギー							—	0.40	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		W		H			2.0	0.13	-	2.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] =	0.96	3.4	0.63	-	3.4
4 効率的運用							3.0	0.25	-	3.0
集合住宅以外の評価							-	-	-	-
4.1 モニタリング		W		H			-	-	-	-
4.2 運用管理体制		W		H			-	-	-	-
集合住宅の評価							3.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング		W		H			3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制		W		H			3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル							—	0.30	-	2.8
1 水資源保護		W	R				3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水							3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	1.00	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無							-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減							2.8	0.60	-	2.8
2.1 材料使用量の削減		W	R				2.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R				3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		—		3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		—		1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R				2.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		躯体と仕上げ材が容易に分別可能となるよう、GL工法やLGS下地を採用している。		5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70	-	-
1 消火剤		W					-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		W					3.0	0.50	-	-
3 冷媒		W					3.0	0.50	-	-
LR3 数地外環境							—	0.30	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		W					3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮							2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H			2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.0	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			R				3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮							3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-
1 騒音							3.0	1.00	-	-
2 振動							-	-	-	-
3 悪臭							-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制							3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制							1.0	-	-	-
3 日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制							3.7	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					適切な照度レベル・照度範囲となるよう設置の検討をし、周辺環境に応じ時刻別運用計画をたてた。		4.0	0.70	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-